

2011年度

科目名	フィールドワークⅢA				
担当教員	高橋 圭一				
配当	日文2		コード	80039	
開期	集中前期	講時	集中0限	単位数	2
授業テーマ	兵どもが夢の跡～大坂の陣で活躍した豪傑たちの史跡をめぐる。				
目的と概要	大阪は商都、煙の都と呼ばれ、最近では水都という言葉もよく聞く。しかし、私にとっては、大阪はかつての戦場である。受講生たちと大坂の陣で活躍した豪傑たちの史跡と言われる場所を歩き、さまざまな伝説の類を集めたい。				
成績評価法	担当回の準備(下調べ、プリント等)50%と各回ごとのレポート50%。				
テキスト	プリントを毎回担当者が準備する。				
参考書	大坂城の男たちー近世実録が描く英雄像／高橋圭一／岩波書店 大阪伝承地誌集成／三善貞司／清文堂				
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	必ずフィールドワークⅢBと併せて履修すること。4月の第1回のガイダンスに出席しないと受講は認められない。宿泊はしない予定であるが、6・7回の日帰り旅行費と昼食代は必要となる。 大坂の陣って何、ということのないように下知識を得ておくこと。				
講義計画					
4月前半にガイダンスを行う。実施日の掲示に注意すること。 毎月2回ほど集まって、大坂の陣に何らかの意味で関わる場所の中から調査に行く所を決め、担当者を決める。担当者はその地の史実と伝説を調べ、交通手段等も確認しておく。場所については受講生の希望を募り、全員で相談した上で決定する。					
現地調査の第1回は大阪城で、高橋が引率する。途中、大坂の陣・大坂城について蘊蓄を披露する。 2回目以降は、受講生が交替で引率者を勤める。引率者は高橋の指導の許にプリントを用意して全員に配布し、歩きながら解説する。 例えば、後藤又兵衛に槍で突かれた家康がここまで来て絶命した、堺の南宗寺、 真田幸村が掘った屋敷から大坂城まで続くぬけ穴の跡のある、和歌山の九度山、 など、いかにも怪しい(というより嘘)伝承こそ、探してみたい。それらは文学の世界に隣接している。 調査後、担当者以外にはレポートを提出してもらう。					
ゲスト解説者として、二度ほど若手の講談師に同行してもらう予定である。 その会は、全員が「講談師と歩いた〇〇」というレポートを提出する。					
夏草や兵どもが夢の跡、であるが、真夏の大坂を日中歩き回るのは極力避けたい。 5・6月、10・11月の土曜日に調査を行う予定である					